ご挨拶

香友会創設80周年記念事業実行委員長
山下静江
〔学部昭和40年卒業〕

昭和16（1941）年創設の香川栄養学園同窓会「女子栄養大学香友会」は、令和３（2021）年に80周年を迎えました。10年前の70周年には、創設当時を知る先輩方、その後の発展を推進してこられた皆様方から、多くの原稿をお寄せいただき、記念誌『「食は命なり」を実践して』が発行され、多くの方々が集う「70周年記念祝賀会」も開催されました。

その後の10年、学園の発展とともに、香友会は活動の幅を広げてまいりました。この度の節目の周年記念事業を考えている矢先、令和２（2020）年の初めからの新型コロナウイルス感染症の蔓延という思いもかけぬ事態に遭遇し、この感染症の終息を予測することも困難な事態になりました。人同士の交流が極端に制限される中、対面による行事は不可能となります。こうした社会環境の下でしたが、記念事業として①記念講演会の開催、②記念誌の発行、③記念植樹の三事業をおこなうことといたしました。

記念誌の内容は、創設70周年の節目から現在に至る10年の香友会活動に焦点を当て、未来に向けて今後の活動に期待することをテーマといたしました。

香友会の長い80年の歴史を振り返ってみますと、歴代名誉会長香川綾先生、芳子先生、明夫先生のお力添えはもとより、創設当時からの歴代会長、副会長、幹事の皆様をはじめ、多くの関係の方々のご尽力の賜物と改めて深く感謝申し上げます。また、香友会資金からコロナ禍の学生会員への支援をおこなうことができましたこと、重ねて感謝申し上げます（詳細は本誌20ページをご覧ください）。

私たちは、新型コロナウイルス感染症の蔓延という事態により、感染の恐怖と人同士の交流が極端に制限される経験をしました。コミュニケーションにより成り立つ教育の世界も、当然その手段が大きく変わりました。食事の場面も感染予防のために皆が一方を向いて黙食することが提唱されています。大切なスキンシップが制限される中、子どもの成長にどのように影響するか心配になります。

また、香友会会長３期（６年）を経験して振り返りますと、３期目はコロナ禍で香友会活動も大きく制限され、オンライン会議や文書審議など「隔靴掻痒」の例え通りもどかしいものがありました。このため会長任期中に果しえなかった事は多くありますが、ようやく明るい日差しも見えてきたように感じます。そして、過去への回帰を期待することより、コロナ禍がもたらしたデジタルツールの進化を利用した情報手段の飛躍的な発展に目を向け、時代に即しながらも「人のぬくもり」も忘れない対応を考えるべきとの思いを強くしています。コロナ禍後の変化していく社会に向かい、私達は「不易流行（変えることと変えられないこと）」「動機善なりや　私心なかりしか（このことは本当に香友会会員にとって良いこととなるか）」を常に意識して、この災難を乗り越えて発展したいものです。

コロナ禍の下で挙行された80周年記念事業を「人をつなぎ　未来をつなぐ」記憶とし、更に絆を深め進歩する「香友会」でありたいと切に希望します。会員の皆様のご健勝をお祈りし、今後のご支援をお願いいたします。